

大草谷津田いきのもの里 自然観察会

小さな春を探そう！

佐野由輝（大網白里市）

日 時：2013年3月17日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：36名（大人21名、子ども15名）

担当指導員：佐野由輝、芳我めぐみ

大草谷津田いきのもの里にも、待ち遠しかった春がやってきて、動物も植物も元気な姿を見せてきました。子どもたちが多かったので、何か「春」を感じるものが見つかったら、報告してもらうことにして、観察会をスタートしました。

子どもたちが真っ先に発見したのは、テントウムシ。テントウムシも陽気に誘われて動き出したようです。子どもたちには負けられぬと大人の男性の方が、林縁に生えているノビルを見つけました。「酒のつまみに良いんだよな」と言っても、子どもたちはきょとん。この味が分かるまでには、しばらくかかるかな。続いて、アリ、クモ、スミレ、ツクシ、などなど、一歩歩くごとに小さな春を発見していました。



谷津田に出たところで、今度は土手に注目。気をつけて観察すると、コナラのドングリの芽生えがあちこちに。去年の秋にドジョウと遊ぶために転がってきたドングリがしっかりと芽を出していました。中には、子葉の間に小さな本葉を出しているドングリも。

続いて、田んぼの中を観察。息を殺して静かにじっと待っていると、ヒキガエルが顔を出しました。1匹見つけると、目が慣れてきたのか、あっちにも、こっちにもヒキガエルが。子どもたちも興味津々にヒキガエルののんびりした動きを観察していました。さて、水中には、どのヒキガエルが生んだのか、ひも状の卵塊がニヨロニヨロと。ヒキガエルの卵を初めて見たというお母さんもいて、びっくりした様子でした。田んぼの水の中にはアカガエルのオタマジャクシも。水路や田んぼの水の中には、カエル以外にも、ドジョウ、アメンボ、カワニナがいて、生き物で賑やかになっていました。

田んぼの畦は、すっかり緑に覆われ、タンポポやナズナ、ムラサキサギゴケなど、色とりどりの草花が咲き誇り、春本番を迎えていました。

坂道を上り、落葉樹の森の中に入ると、冬の間、葉っぱを落としていた木々が芽吹きだしていました。この季節の森は、一日一日でその姿をがらっと変えていきます。今まさに、葉を広げ、枝を伸ばそうとしている木の様子を見ることができました。

このほか、ミミズやタラの芽、遠くからは姿は見えずとも鳥の声も聞こえ、大草谷津田いきのもの里の春を堪能した1日でした。